

上市町学校教育審議会（第3回）

- 1 日 時 令和5年10月4日(水) 19時00分～20時43分
- 2 場 所 上市町役場 4階大ホール
- 3 審議委員 19名（1名欠席）
- 4 出 席 小竹副町長、牧田教育長、平井事務局長、
平井教七次長
〔 スタッフ 教委：藤田局長代理、廣瀬主事 〕
- 5 概 要 次のとおり

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 議事

・三条市立大崎学園を視察しての意見等

平井教育委員会事務局長より視察について報告

最も印象に残ったのは学校の雰囲気がとても優しく感じられたこと。1年生から9年生が同じ校舎の中で学ぶことにより、自然と育まれるものではないか。下級生から見られているという意識が上級生としての自覚を促し、問題行動の減少につながっているとのこと。

また、小中一貫的な教育を行うには、準備段階も含め先生方は多忙となるが、問題行動が減少することで、生徒指導に係る業務は軽減されるため、プラスの面、マイナスの面があるとのこと。

小中を統合した際の地域との関係構築について、大崎学園での PTCA、PTA にコミュニティ（C）を加えた取組は、とても興味深いものであった。

・意見（19時10分～19時18分）

委員①

子どもたちがどのように校舎を活用できるかという観点から見てきた。校舎に関しては、非常に考えられて造ってあるという感じがした。グラウンドは2つあったが、上市町ではグラウンドは1つでいいと思う。ただ、体育館は、中学校は部活動があるし、小学校は規格が違うので2つないとやっていけない。玄関や図書室を学校の特徴として、共通で使えるようにしていけばいい。新校舎を造るという方向性であれば、次の時代に向けて一斉にリスタートしていければと感じた。

委員②

子どもたちが、元気に挨拶をしてくれる姿を見て、いい学校だと感じた。自然と上級生が下級生の面倒をみるということも9年制になればできると思う。

また、地域を巻き込んだ PTCA という活動もいい取り組みである。新しい学校を創ると前向きに感じた。

・学校統廃合の具体的な枠組みについて

平井教育委員会事務局長より別紙資料に基づき説明

今回、白萩西部小と陽南小校区の0歳児から小学6年生までの児童の保護者101名を対象に実施した意向調査の結果、回収率は46.5%であった。内訳は「2校を上市中央小へ統合」が23件で48.9%、次に「白萩西部小と陽南小の2校で統合」が13件で27.7%、「町内小中学校を1校にするまで統合は行わなくてよい」が、11件で23.4%となっている。

参考資料のパブリックコメントの意見で、後半に下線が引いてある部分に「何よりも子供の心身の～酷なことはないでしょうか。」とあるように、学校の統廃合にあたっては、子どもたちの環境変化ということに十分に配慮する必要があると思っている。

統合案2により、令和8年度に先行して統合を行った場合、小学4年生以上の児童については、令和11年度で中学生となっていることから、現状で中学校へ進学する状態と変わらないものと思われる。

令和元年度生まれの子どもたちは、令和8年度の統合時に1年生として小学校に入学するため、小学生時に経験する統合は1度のみとなる。

課題があるのは、平成29年度と平成30年度生まれで、最初の統合を小学2または3年生で経験する。仮に令和11年度または12年度に全体で統合するとすると、配慮が必要になるかと思われるが、高学年となることから、低学年に比べると、比較的負荷は少ないように考えている。

・質疑応答（19時24分～20時15分）

委員①

令和10年度の統合、校舎完成というのはないということか。13年度に統合した場合は、2度経験はないということか。

教育委員会事務局長

校舎の完成は早くとも令和11年度以降になる。令和13年度に統合となれば、令和8年度の小学校新入生（令和13年度時の小6年生）は、令和8年度に統合した場合、小学生時に統合を2度経験することはない。

委員③

令和13年度以降の統合であれば、白萩西部小と陽南小の子どもたちは、2回経験しなくてよいのか。

教育委員会事務局長

そういうことになる。

委員④

今回の調査においてそれぞれの選択肢を選んだ理由は把握しているのか。

教育委員会事務局長

3つの選択肢から選んでもらっただけであり、どういう理由かまでは把握していない。

委員③

大きな学校に行くということに不安を覚える保護者もたくさんいるが、複式を解消するため、白萩西部小と陽南小の統合を早急にするというのは、親としては有難いこと。上市中央小に白萩西部小と陽南小が統合されるのであれば、両地区ももめないと思うし、子どもたちにとってもクラス替えができる方がいいのではないか。

教育委員会事務局長

白萩西部小、陽南小の2校での統合については、地域間の調整も含め、かなりハードルが高いものと思っており、正直、地域間での綱引きは避けたい。

委員⑤

自分は学校統合を経験しているが、当時小学校4年生でよかったという気がする。もう少し成長して、人間関係ができると、なお大変かと思う。

委員⑥

白萩西部小と陽南小が上市中央小に統合となれば、移行期間の間に上市中央小の行事に白萩西部小や陽南小の児童や保護者を招待し、参加してもらうなど、不安を解消する工夫もあると思う。前もって、学校に入りやすい雰囲気を作ることが大事だと思う。

教育長

確かに人間関係が変わるというのは、5、6年生という思春期の子ども

たちにとって、課題になると思う。交流学习に行くとか、保護者を交えた交流など子供たちの心を少しでも和らげるように取り組む必要がある。

委員⑦

9月6日に開催された意向調査の実施に伴う説明会に参加したが、参加者が少なかった。両校で学習発表会の後に説明会を開いてもらえないか。自分としては、令和8年度に白萩西部小と陽南小を上市中央小に統合とすることであれば、中学校に行く時にいきなり100名ほどの同学年の中に入るよりは、いいのではないかと思う。

教育委員会事務局長

確かに、事前に上市中央小へ統合となると、子どもたちの負担はそれほどでもないという見方もあると思う。

白萩西部小と陽南小ともに、11月の学習発表会の際に、改めて保護者向けに説明をする予定である。

委員③

上市中央小に行くからには、新しい校舎も経験させてあげたいとの思いもあり、義務教育学校が早くできたらいいと思う。統合案では、上市中央小に令和8年度に統合となっているが、説明会での保護者の反応次第で、予定が変わることがあるのか。

教育委員会事務局長

説明会ではあくまでも審議会での検討の方向性について説明する予定である。説明会での意見はお聴きしたうえで、審議会にお伝えしたい。基本的なスケジュールはぶれないと思う。

委員⑧

白萩西部小と陽南小の保護者に説明した後で、もう一度調査する予定はあるのか。

教育委員会事務局長

再度の調査の予定はない。

委員⑨

令和元年度生まれに車いすを使う子どもがいる。令和8年度に新1年生になるので上市中央小にバリアフリー設備が必要になるのでは。

教育委員会事務局長

町では、これまでも車いすを使われるなど支援が必要な場合は補助員を配置するなどしている。どういう支援が必要か保護者と相談しながら進めていく。階段の昇降については、今年度、中学校で購入した機器があるので、そういったものも活用できればと思う。

委員⑩

白萩西部小と陽南小が統合されることで、子どもたちや保護者の不安を解消できるよう、耳を傾けて対処していくことが大切。令和8年度になるのであれば、それまでに小々交流や小中交流の場を進めないと、不安感は解消されないと思う。

委員⑪

三条市の教育委員会の考え方は素晴らしいと思う。三条市全体としてどういう子どもを育てたいかという教育観が議論してある。上市町でも、義務教育学校になる前に小学校から中学校への9年間を、どんな風に過ごすのかというプランを考えてはどうか。

教育長

上市町の子どもたちをどのように育てたいのか、先を見据えて作ってきたい。

委員⑫

統合する前に段階的に子どもたちのケア、サポートしていくのが大人の務め。三条市では、教育委員会が主体となってやっているのが見えたので、上市町も教育委員会主体で、子どもたちのケアや交流を進めて行く必要があるのでは。

委員⑩

子どもたちには人との新しい出会いであるとか、統合後の期待感をいかに抱かせるかなど、プラスにできる面もある。

委員⑬

案1の方が適切なのではないか。辛い思いをするというのであれば、一度の統合とした方が良いのではないか。

教育委員会事務局長

子どもたちの環境変化ということからすると案1の方がいいとは思わ

れるが、子どもたちの学習環境というところから、複式学級の解消が出来ないということが不安だということであれば、先行して統合するということになるのではないかと思う。

委員⑦

講師の確保が難しく、今後、一人の先生が同じ教室で2学年の授業を受け持つという本来の複式学級になるということを保護者への説明会で伝えてほしい。

教育委員会事務局長

説明会の際には、その点をしっかりと説明させていただく。

委員⑭

校舎完成が令和11年度前にならないのであれば、複式の解消を優先する案2が良いのではないか。

会長

異議がなければ、審議会の方向性として、案2で進めていきたい。

・義務教育学校か小中一貫教育校かについて

・質疑応答（20時20分～20時43分）

委員④

報告書に「現在の日本の高校は『有用性をはぐくむ教育』からは、かけ離れている場合が多いと感じます」と書いた。義務教育学校は素晴らしいと思うが、試作段階であることは否めないなので、小中一貫教育校を推したい。

委員①

上市町の規模から考えると、建物は一緒にして、とりあえず小中一貫教育校とし、数年後に義務教育学校にすればよいのでは。

委員⑨

視察の中で小中が別々に活動している感は強かった。大崎学園も模索中ということならば、小中ギャップの解消など義務教育学校としてのメリットもあり、上市町として大変ではあっても新しい教育に挑戦するのも良いのではないか。

委員⑫

小中一貫教育校の方が良いのではないかと。小中ギャップを解消するということは、中高ギャップが起きる可能性の方も高いということがあるのではないかと。段階的にやった方がいいのでは。方向性がきちんと定まっていない状態で統合すると、上市町の教育全体を下げるリスクが大きくなるような気がする。

委員⑪

中高ギャップを考えると、中1になるためのギャップというのも必要と思われる。

委員⑩

小学生と中学生は体格的にも違う。交流するにしても限界がある。取組みとしては素晴らしいと思うが、先生の負担が大変という印象。義務教育学校を上市町でできるかと考えたら、現実的ではないような感じがする。

委員⑨

小中一貫教育校という中でも中1ギャップはあるのか。

委員⑧

小学校で卒業式をして、中学校で入学式をする。部活動が始まるのは、いい意味でのギャップではないか。

教育委員会事務局長

小中一貫教育校と義務教育学校ともに、目指すところは同じところ。9年間でどういう子供に育てていくのか、一体的に進めて行くことが大切と考えている。

小中一貫教育校と義務教育学校ではどう違うのか、それぞれのメリット、デメリットについても探っていきたい。

教育長

義務教育学校と小中一貫教育校の違いは、校長が1人か、2人かということ。より適切に小中一貫教育を進めるのであれば、トップは1人が望ましい。教育委員会として9年間継続して子どもたちを育てるには、どの形がよいか話しあって義務教育学校という結論に達した。

教育委員会事務局長

教育委員会では、11月に愛知県の瀬戸市立にじの丘学園という小中一貫教育校の視察を予定しており、視察結果を審議会へ報告させていただく。

(4) 連絡事項

- ・今後の審議会日程について

(5) 閉会

以上